

N-2 石巻市牡鹿地区十八成浜

2012年5月2日(水)

報告者名	山口未花子	被調査者生年	1948年(男)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	牡鹿地区宮司(N-6話者、N-9・N-10話者②)
補助調査者	なし		

十八成はもともと130世帯ほどのこの地域では大きい集落であった。浜には海水浴場を作り、また小淵などの浜に海産物の養殖場を貸していることもあり、リッチな浜である。

十八成浜(くぐなりはま)の神事

翌日3日に本祭のある十八成浜について聞き取りを実施した。

神事は3日だが、祭り自体は2日の前夜祭から始まる。今日(2012年5月2日)も朝8時に「大祓い」の儀礼をすでにとりおこなったという。場所は公民館で行い、集落のほぼ全員が参加する。そもそもこの浜の祭は、実業団や氏子など、集落の一部がメンバーとなる組織がとりおこなうのではなく、区(十八成浜)のメンバー全員によっておこなわれる。これは牡鹿地区のなかで十八成浜だけの特徴である。

大祓いのあとは、全員が祭りの準備をする。この際、区の成員が班に分かれて分担して準備をしていた。(以前は年ごとに交代で?) 確か3つの班に分かれていた。女性は翌日の神事で撒く餅を丸めたり、男性は外の仕事をやる。集落内の道や神社を花の枝で飾り付ける。(図)

準備が終わると夕方からは宵祭りが始まる。

翌日3日は本祭で、朝9時から白山神社で神事を行う。そのあとでお神輿をかついで集落を練り歩く。家々をめぐるだけではなく、集落にある神社3か所を必ず回る。昔は5か所だったが近年は3か所。お神輿は最後海につける。大体それが昼過ぎまでで、14時ごろから直会が始まる。十八成の直会はなんとといっても「鯨」肉が出るので有名だ。捕鯨関係者が多い浜であるし、現在鮎川捕鯨の社長も十八成に家がある。

被災の影響

昨年2011年もこのお祭りは5月3日に「復興祭」としておこなわれた。(宮司の) 道具もないし、神社までの道はまだがれきで埋まっていたから無理だろうといったのだが、何とかやってください、と頼みこまれて、そうしたら偶然祭りの前に宮司の衣装も出てきたりして、なんとかみんなでガレキもきれいにして、神輿は(神社から下に運ぶのではなく)神社の下の広場で準備して、お祭りをすることができた。震災後牡鹿地区で初めて行われた祭だったので、人も沢山きたし、マスコミも取材にきた。その時に張った「十八成頑張れ」などと書いたポスターが今も神社の本殿にある。

5月3日にこだわったのは、ここは昔からこの日に祭りをやっているからというのもある。ここと小網倉、小淵浜、新山浜は昔からの旧暦の日程で祭をやる。(土日関係なく)

昨年のお祭りでは97枚のお札を出した。ということは130ほどあった世帯が97に減ったということだろう。この浜は全員が祭りに参加するのでお札の数と世帯の数はほぼ一致していると思う。

十八成以外の集落について

鮫浦は震災のあと30世帯あったのが24世帯(お札の数からの推定)に減った。家屋は全滅したので、ほとんどの人は仮設に住むか引っ越していった。それでも今年は祭りをした。といっても神社で祈禱をただけ。本来は神事の後浜祭りといって浜で海上祈願を行うのだが、それは今年は出来なかった。

牡鹿半島全体をみると谷川浜は被害がひどかったのと、田代島の大泊集落はそもそも少なかった世帯が4世帯くらいになってしまったため、祭りを行うことは難しいと思う。谷川は本来1月にお祭りを行っていたが今年はできなかった。

田代島は獅子舞が少し変わっていて、昔は大人がやったが、集落のほとんどが遠洋漁業に従事するようになったため、子どもがやるようになった。ただ最近では獅子舞をやることはなくなった。



写真1 祭の飾り付け